



学校図書館だより 11月

令和6年11月26日
荒川区立第三中学校
校長 小柴 憲一
学校司書 中山 理恵

ついでに たにかわしゅんたろう 追悼 谷川俊太郎さん

令和6年11月13日水曜日、詩人の谷川俊太郎さんが老衰のため亡くなりました。92歳でした。

第一詩集『二十億光年の孤独』にはじまり、数々の詩をつくり、『スイミー』や『ピーナッツ』（スヌーピー）の翻訳もされました。

汐入小学校・汐入東小学校の校歌も、谷川俊太郎さんが作詞されています。

ぜひ三中図書館にある谷川俊太郎さんの作品を手にとって読んでみてください。



11月の学校図書館でこんな授業

三組 「弁論大会」

三組の弁論大会が図書館で行われました。大きな声で、堂々とした発表でした。図書館で調べたことをもとに、身近な自然公園について改善点を提案したり、YouTubeを使って電車の発車メロディーについて発表したりしました。発表、お疲れさまでした！



*10月号の図書館だより裏面、「新しい本」の紹介『君はどう生きるか』作者の名前の漢字が間違っていました。×鴻上庄史 → ○鴻上尚史 お詫びして訂正いたします。

(裏面 新しく入った本へ)

新しく入った本のなかで **特に本が苦手な人** におすすめしたい作品

どうも母には頭が上がらない人に
『かあちゃん取扱説明書』
いとうみく/著 童心社

「かあちゃんのおつかい方をマスターしたら、おこづかいだって、おやつだって、ゲームだって、ぼくの思い通りになるかもしれない」と考えた哲哉でしたがはたして・・・？

猫の写真に癒されながら偉人の言葉を、ひとつよむ
『毎日が平気になる猫ことば』
猫は液体/著 大和書房

6匹の猫と暮らす様子をYouTubeにあげる作者による、写真格言集。色も種類も異なる6匹の猫たちとの毎日の暮らしに、のんびりした気持ちになります。猫好きな人に。

「先生、おれ、たぶん明日しゅくだいわすれます」??
『先生、しゅくだいわすれました』
山本悦子/著 童心社

しゅくだいをわすれたゆうすけは、しどろもどろのうそをつきませんが、えりこ先生に「もっと上手なうそをつかないと」と言われます。上手にうそがつけられたら、しゅくだいをやらなくていいの・・・？

世界は知らないことばかり
『誰も知らない世界のことわざ』
エラ・フランシス・サンダース/著
創元社

「あごひげが郵便受けにはさまってしまう」不意打ちをくらう（ルウェー）「ザワークラウトの中で自転車をこぐ」途方にくれる（フランス）など、思いもかけないことわざに異国の香りを感じてみては？

もしも母親がインフルエンサーだったら
『インフルエンサーのママを告発します』
ジェ・ソンウン/著 晶文社

無名だったモデルのママはダルムの育児ブログを上げてからインフルエンサーに。朝7時から登校の動画をとられたり、みんなが自分の個人情報を知っていることに嫌気がさしたダルムは・・・

年が離れていても友達
『パフィン島の灯台守』
マイケル・モーパーゴ/著
評論社

ある嵐の夜、沈んだ船の乗客を助けてくれた灯台守の老人ベン。助けられた5歳のアランは、もらった絵を心のささえにつらい寄宿舎生活を耐えぬきます。そしてベンのもとで傷ついた鳥を看病しながら生活を始めますが・・・。

新しく入った本



新着本コーナーにあります。貸し出し中！

書名	著者	出版社	備考
あの星が降る丘で、君とまた会いたい。	汐見夏衛	スターツ出版	『あの花が咲く丘で』の続編
小鳥とリムジン	小川糸	ポプラ社	生きる術も住む場所もなかった小鳥が人との出会いによって変わっていく物語。
ようこそ、数学クラブへ	キム・ミニョン	晶文社	暗記もテストもない、もっと自由な「数」と「形」の世界
いろいろ	上白石萌音	NHK 出版	読書好きで知られる作者の毎日が語られるエッセイ
ぐるぐるの図書室	工藤純子、廣島玲子ほか	講談社	本好きも本に興味ない人も、茜色の張り紙を見たのなら、図書室にいらっしやい
16タイプ別性格 BOOK	キム・ソナ	世界文化社	「自分ってどんな人？」自分を知って向き合ってみよう
旅の絵本	安野光雅	福音館書店	ページをめくると知らない国 旅人になって本の中を旅してみませんか？